BOOKS

横浜市の花である「薔薇」は今が最盛期だ（横浜の山下公園）

書店だより

▷田村耕太郎さんトーク＆サイン会『頭に来てもアホとは戦うな！』37万部突破＆「Yaesu business choice」受賞記念（14日19時、八重洲ブックセンター本店＝東京都中央区）「この国には〝意味なく干渉してくるアホ〟がたくさんいます。しかし、アホに関わって時間やエネルギーを無駄にできるほど、我々の人生は長くはありません」。こう語る田村さんの「たった一度の人生を悔いなく生きるためのヒント」が盛りだくさんのトークショー。人間関係で苦労している人、自分の進むべき道に迷っている人、ベストセラーの生まれたいきさつを知りたい人の参加を募っている。定員80人、参加費500円（税込み）。1階カウンターと電話（03・3281・8201）で申し込みを受け付ける。

▷徳田耕一さん『名古屋発ゆかりの名列車』発売記念トークショー（16日11時、三省堂書店名古屋本店＝名古屋市中村区）当日イベント後に徳田さんからサインがもらえる。同書を予約、購入の人に先着順でイベント参加券を配る。

紀伊国屋書店ベストセラー

新書・選書（5月21－27日）

順位	タイトル 巻号	著者	出版社	消費税込み価格(円)
1	日本企業はなぜ世界で通用しなくなったのか	林原　健	ベストセラーズ	864
2	未来の年表〈2〉－人口減少日本であなたに起きること	河合　雅司	講談社	907
3	極上の孤独	下重　暁子	幻冬舎	842
4	国体論－菊と星条旗	白井　聡	集英社	1,015
5	友だち幻想－人と人の〈つながり〉を考える	菅野　仁	筑摩書房	799
6	武士の日本史	高橋　昌明	岩波書店	950
7	歴史と戦争	半藤　一利	幻冬舎	842
8	サラリーマンは300万円で小さな会社を買いなさい	三戸　政和	講談社	907
9	内臓脂肪を最速で落とす－日本人最大の体質的弱点とその克服法	奥田　昌子	幻冬舎	842
10	銀行員はどう生きるか	浪川　攻	講談社	864

『伸びる中堅・中小企業のためのＣＳＲ実践法』

正直経営が社会の信頼得る

（第一法規　0120・203・696）

著者登場

湊（みなと）　信明（のぶあき）氏

弁護士

87年（昭62）中央大法卒。03年湊総合法律事務所開設。現所長。15年東京弁護士会副会長、17年から中小企業法律支援センター本部長代行。著書に『勝利する企業法務～実践的弁護士活用法・法務戦術はゴールから逆算せよ！』（レクシスネクシス・ジャパン）など。東京都出身。55歳。

―本書で伝えたかったことは。

「中小企業こそ『CSR（企業の社会的責任）』に取り組まなければ生き残れない時代になりつつある。CSRとは、六つのステークホルダー（従業員、顧客、取引先、地域社会、地球環境、株主・投資家）に喜んでもらい、貢献することで企業力を強めていくことだ。その基盤にコンプライアンス（法令順守）がある。難しくて厄介なものと思う人も多いと思うが、愛と良心と正義に従い、勇気を持って正直に経営し、それを企業全体に浸透させていけば、法律など知らなくても問題は起きにくい。CSRに取り組む中小は、社会から信頼されて必ず成長する」

―執筆の動機は。

「過労で社員が自殺した電通事件がきっかけだ。日本の企業は法律の基準を最低限満たした形をとることにとらわれすぎている。会社にとって最も重要なステークホルダーは従業員だ。会社が心をこめて従業員のことを考えていれば、法令は自然と守られる」

「CSRは大企業に限らず、中小にもまだ浸透していない。どう取り組んでいいか分からず困っている中小の経営者に対して、難しい言葉を使わず、わかりやすく、かみ砕いたCSRの解説書を書きたかった。プロローグとエピローグでは、コンプライアンスやCSRを軽視した中小企業のトラブルをストーリー仕立てで紹介した。解決に至った経緯など、少しでもイメージが伝われば思う」

―中小を取り巻く環境をどう見ていますか。

「私が弁護士になった20年前、中小の社長は『もうかれば良い』といった〝モーレツ社長〟が非常に多かった。だが、今の若い経営者は前向きな相談も多く、CSRに対する意識が高くなっているように思う。政府の長時間労働の是正などに向けた働き方改革も関心を高める追い風になっている」

「しかし、中小経営者の多くは『そんなことやったら会社がつぶれてしまう』と働き方改革に後ろ向きだ。その会社をよく見てみると、深刻な人手不足に陥っている。CSRの考え方にも通じるが、働き方改革は社員を甘やかすことではなく、企業の足腰を強くするということ。働き方改革を再定義すると企業力強化だと言える」

―CSRに取り組む中小企業の経営者へアドバイスを。

「会社を設立したということは、社会に貢献したいという思いが必ずあったはず。企業は往々にして金もうけに走る部分もあるが、まず企業理念を思いだして明確化することが重要だ。最近は不祥事のニュースも多いが、もし不正に直面することがあっても、経営者は隠蔽した従業員を懲戒し、正しい行動をとった従業員を評価する仕組みづくりも大切だ」

―今後の展望は。

「執筆したいテーマが二つある。一つは事業承継だ。相続時などの法的な落とし穴を伝えたい。二つ目はオープンイノベーションだ。自動車業界でエンジン車から電動車に移行すると、部品の下請け企業の多くがつぶれると言われている。日本の産業を支えている中小が持つ高い技術を、航空宇宙などの次世代の産業にどう引き継いでいくか伝えたい」（山下絵梨）